自衛隊入間病院 引越し編

航空幕僚監部首席衛生官　空将補　桒田 成雄

令和４年３月１７日、自衛隊入間病院の開院の日を無事迎えることができました。多方面にわたる関係の方々のご尽力に対しこの場をお借りして御礼申し上げます。

航空自衛隊唯一の病院として、自衛隊入間病院に期待する事項が３点あります。

まず初めに、各種事態に際して、航空自衛隊のみならず自衛隊全体の任務を支える存在となることです。輸送機等の活用により患者空輸時に必要な医療能力を備えた医療部隊を自衛隊入間病院から派遣し、事態正面から最終後送病院（自衛隊中央病院）までの継続した医療支援を行うことで、多様化する自衛隊の任務遂行を確実に支援し得ると考えております。

次に、自衛隊中央病院、防衛医科大学病院、そして地域の医療機関との連携により質の高い医療を提供することです。質の高い医療を実現させるためには各医療スタッフの専門性を高めるとともに、各医療スタッフ間及び各病院間の連携を図る必要があります。

最後に、航空自衛隊の衛生職域隊員の教育の場として絶えず進化し続けることです。衛生支援態勢を確保するため、医療従事者の知識、技能の維持向上及び養成を効率的かつ効果的な教育の実施を追求していかなければなりません。

自衛隊入間病院には航空自衛隊の３つの病院で医療に携わってきた人々、病院整備を推進した人々の思いが込められています。受け継いだ伝統を活かし、能力をいかんなく発揮し、多くの人の生命と健康を守ることを期待しています。

自衛隊入間病院長　空将補　加藤 圭

自衛隊入間病院の新編にあたり、多くの方々のご尽力とご支援に感謝申し上げます。

自衛隊入間病院のビジョンとして「未来創生」を掲げました。医療を通じて隊員・家族のため、地域医療や災害派遣等を通じて国民のため、そして、自衛隊入間病院で活躍する職員のために、病院職員が一丸となって自衛隊入間病院の未来を創っていきたいと考えています。そして、自衛隊入間病院が自衛隊衛生の未来を創っていければと思います。

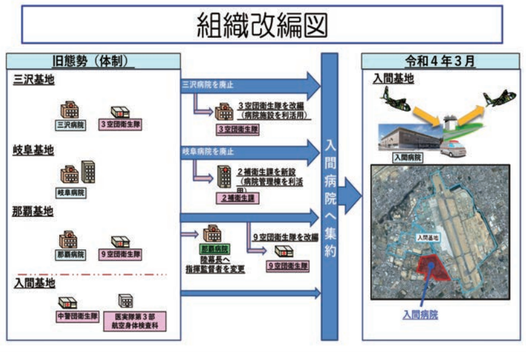
自衛隊入間病院の構想から新編まで長い年月を要しました。例えるなら、先達の方々が土を耕し、種をまき、必ず芽を出すんだ！ との思いで、この自衛隊入間病院事業を支えてくれました。そして、令和４年３月17日に芽が出ました。これからは、私たち自衛隊入間病院職員がこの芽をしっかり育てていく必要があります。この芽が大きな木に育ち、寄りかかった人の傷を癒す。きれいな花が咲き、心を和ます。おいしい実が成り、それを食べた人が元気になる。5年、10年、20年後、自衛隊入間病院で医療を受けた方々が“ありがとう”と思ってくれる病院にしていきたいと思っています。

引き続き、皆さまのご支援、ご理解を頂きたく、末永くよろしくお願いします。

1

「航空自衛隊入間基地（司令　小野打泰子空将補）に今年３月、自衛隊入間病院が新編された。今まで航空幕僚長が指揮監督する３つの自衛隊病院（三沢・岐阜・那覇）を航空医学機能を有する機能病院として自衛隊入間病院に集約したものだ。これは、平成２１年８月に行われた「自衛隊病院等在り方検討委員会」の結果を踏まえ、衛生機能の強化を図るため、自衛隊病院の拠点化・高機能化の一環として質の高い病院を整備したということである。これにより、自衛隊三沢病院及び自衛隊岐阜病院は閉院したが、三沢は３空団衛生隊を改編、岐阜は第２補給処衛生課を新設し、自衛隊那覇病院は、指揮監督者を陸幕長へ変更した上で、９空団衛生隊を改編し、現地の隊員には影響がない様に自衛隊入間病院を新編した。

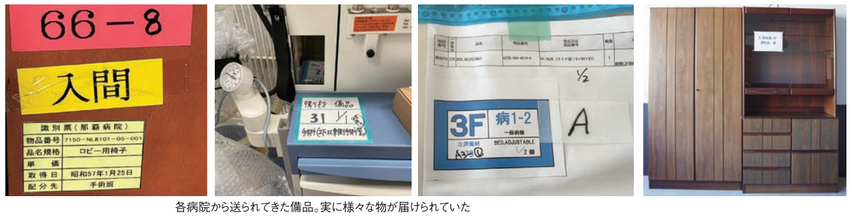
平素の自衛隊入間病院は、隊員や家族等の診療・航空機操縦者等の航空医学的管理・看護に従事する隊員の育成等を行う。事態発生時は、航空機を用いた患者後送拠点として安定化処置や治療を行う。内科・外科・整形外科・麻酔科・精神科・救急科・小児科・航空医学診療科・歯科・歯科口腔外科をもち、入院患者収容数は、一般44床・HCU6床・精神10床の60床となっている。



ハード的な準備だけでなく、地域や各病院との調整や統括と準備室の仕事は多岐にわたった。すぐ近くにある防衛医大との連携には別宮副校長が尽力してくれ、非常に助かったとか。右の看板脇には、前入間基地司令（現4術校長）津曲将補のサインが…

2

今回の引越しでは、三沢・岐阜・那覇の各病院から送られてきた、ソファーや書棚（病院長室のものも！）を再利用している。各病院から届いたのは、備品だけではなく、それぞれの文化も届いたという。それにより違う文化が一つになり、化学反応を起こして更に良い形で新しく出来上がったのが自衛隊入間病院であると、開院前は自衛隊入間病院（仮称）準備室長であり現中警団衛生班長である高畑２佐は言う。



各病院から送られてきた備品。実に様々な物が届けられていた

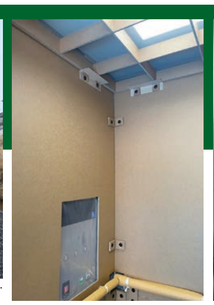
集中治療室。ベッド搬入前と後

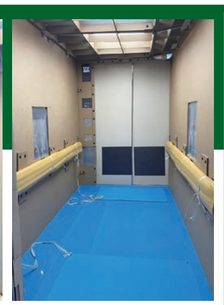
MRIルームの入り口。沢山あった荷物がすっきり

各地から集められたソファー。それぞれ特色があって面白い。那覇から来たソファーはお洒落!?

リサイクルショップ化していたロビーも広々と変身

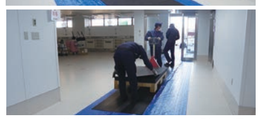
航空機マーク付き……



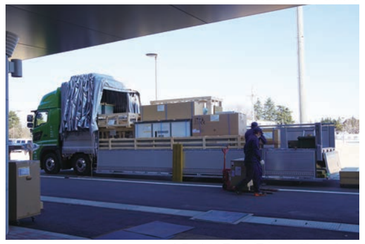


養生の仕方が芸術的

3 引越し作業風景

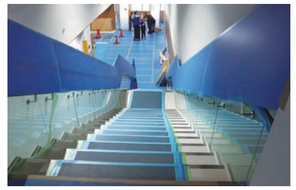


養生シートの上にゴムマットを引いて運ぶ

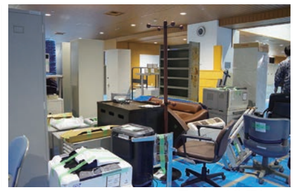


トラックが何台も何台も…連なっていた

4 自衛隊入間病院の概要



階段も全て養生

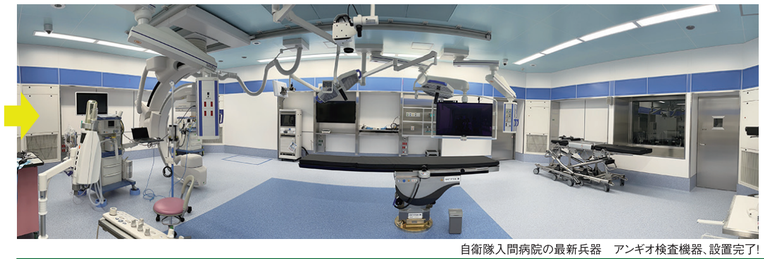


届いた物の整理も大変

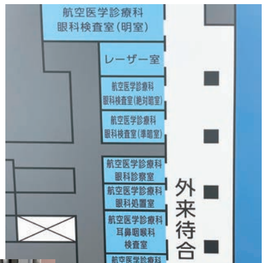
5

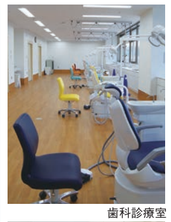
自衛隊入間病院の３種の神器は、胸腹部臓器や骨格などを診るCTスキャン、脳や関節などを診るMRI、そして血管造影をするアンギオ検査機器だという。

写真はアンギオ検査機器納入の一部始終。



自衛隊入間病院の最新兵器　アンギオ検査機器、設置完了!





歯科診療室

病室のトイレとシャワー

6

自衛隊入間病院では、航空医学実験隊で行なっていた「航空医学」部門を扱うことになった。これにより、航空身体検査などで異常が見つかった際に、精密検査や高度な診断・治療などをその場で行うことができ、異常発見から治療終了までをシームレスかつ適切に管理できる様になった。また、常に航空医官による専門的な診療が受けられるため、操縦者等の士気高揚及び負担軽減にもなるという。

非磁性体を使用した MRI 用の車椅子

分厚い、防音室の扉

操作室からCT室を確認

7

大規模災害時等には災害拠点ともなる広い陸上競技場は、地域住民も使用可能。１周４００メートル９コースの全天候型塗装のトラックやソフトボール場兼サッカー場もある。更に、空自隊員の教育を行う教育棟もあり、課程入校学生を最大９０名程度居住できる隊舎棟。衛生技術（准看護師）、救急救命士、航空医官課程などの７課程の教育を受けることができる。救難隊の救急救命士もここで養成される。。

非常用電源も確保。発動発電機が備えられており、電気が止まっても病院の電力を供給できる様になっている。

発動発電機

研修棟

災害対処拠点にもなる陸上競技場

病院施設のリハビリスペース（要時トリアージスペース）